



アバン仙台 Jr. Youth News 第29回 2017年1月号

ここからアバンの強化と再生に走る～新人戦は課題残し終了～

10月から始まったクラブユース新人戦も12月をもって全日程を終え、9～16位決定戦の2試合でも得点を奪うも逆転され連敗。昨年を下回る結果でした。コーチ個人としても、みんなをもっと盛り立てて気持ちよく試合に臨ませ続けられなかったことに、そして技術的にもみんなを戦いきれるところまで上げられなかったことに責任を感じています。

今回の新人戦を通じたチームの取り組みは、サッカーの技術だけでなく、その技術を戦術の中でより効果的に生かすために必要な、サッカーの中で行われている動きそのもの、ポジション間のバランス、パスを受けるタイミングをつくる、タイミングを観るなどに繰り返し確認してきました。そして動きを伴う中でパスをより効果的に使って試合の流れをつくる。急がず、リラックスしてプレーできることを狙って取り組んできました。ただ、新人戦全体を通して試合前後半の中で、チームの求める「質」をもって相手に対してプレーをつなぐことができたのは、ごくわずかだと思います。この未完全な部分については来年度のリーグ戦を戦い抜く上では大きく影響していきます。

今後の活動では、強く、そしてテクニカルに戦いぬいていくため平日やチーム練習、強化試合の中で繰り返し選手と取り組んでいきます。また、「個」の技術力の中でも「止める・蹴る」のテンポ、スムーズさは課題です。さらに、味方の動きや相手の位置や反応などもよく観てボールを置く位置を自然に選べること、ドリブルもタイミングだけでなくもっと距離感や相手の寄せ方なども感じて、効果的に「運ぶ・動かす・仕掛ける」場面も判断できることも大切です。少しずつですが、質は上がってきています。よい準備をしていきましょう。

9～16位 順位決定トーナメント 結果

①	12月10日(土)	VS ACアズーリ	×	1 - 4
②	12月11日(日)	VS 七ヶ浜SC	×	1 - 2



立て直しのために全員で話す 最後の一戦を前に



1点を掴みとれ ベンチからも声をかける 勝利のため1点を

今回は、宮崎健登くんを紹介します。最近ではチームの中でよく声をかけてくれるようになり、頼りがいのある選手です。プレーの面でも質がさらに高まれば、間違いなくチームを勝利に導ける選手となってくれるはずです。本人のコメントです。

「正確なパスやトラップをして声を掛け合いテンションを上げてミスを少なくして、流れも雰囲気も悪くならない強いチームになりたいです。これからの活動も応援をお願いします。」健登くんのような成長も取り組みの鍵になります。



宮崎 健登くん (みやさき けんと)

強化合宿で1年のスタート

新人戦が終わり本当の勝負、戦いのための期間に突入しました。これまで選手たちの「個」の育成だけでなく、サッカーの基礎基本に力を入れてきました。ある程度、基礎技術に対する考え方、今後のチームの基盤はつくれたと思いき、再生していくための必要な取り組みだったと思います。

今後は、アバンツァーレ本来の武器「ドリブル」を最大限に活かしたサッカーを磨いていきます。相手チームを圧倒し、観ている人を魅了できる強いサッカーを目指します。

そのために、まずは冬休み明けに予定している「チーム合宿」でリーグ戦に向けた強化スタートです。合宿でのテーマは「個人技術の強化」、「運動量を伴ったボール奪取力向上」です。

選手みなさんは、強い気持ちで参加しましょう。コーチを含め選手皆さんも、今年一年の経験と結果から「危機感」も持ち続けること、この中学生年代でも「いつ」どの選手に実力で上回れるかわかりません。自分の活動の目的に向かって走るのをやめないでください。また、個人で続けてきた体幹トレーニングも積極的に取り入れ、合宿先でもコミュニケーションの一環としてみんなでやることで、今後のリーグを戦いぬく身体づくり、チーム力の向上につながると思いますよ。「戦いの一年」にしましょう。

ジュニアユース練習会・説明会

1月 ジュニアユース練習会・説明会のご案内

①1月14日(土)17時30分～19時30分

会場:北中山コミュニティグラウンド

②1月29日(日)14時00分～16時30分

会場:中田中央公園サッカーグラウンド

【説明会】:18時00分～19時30分

会場:アバンツァーレ事務局内 指導室

現在、在籍している選手の中にも、部活動なのかクラブチームでの活動なのか最後まで悩んだ選手も多数おります。今、悩んでいる選手も一度、ぜひ練習会に参加してみてください。

参加に関するお問合せは、ジュニアユース担当の島山まで。

TEL:070-5479-1433

メール: jr-youth@avanzare-sc.com

コーチが考える「チーム」

富山コーチが考える「チーム」、それは「競争」できるチームです。チーム力を持つのであれば「競争」、どの選手がピッチに立ってもチームのレベルが落ちない集団になりましょう。

そして、強い集団を目指すうえではもちろん、「個の力」は大事です。トレーニングから「個」で競争し合い、チームのサッカーやサッカーで大事なことを理解することが大事です。そして

- ① 体現できる「技術力」
- ② 技術を効果的に使える「判断力」
- ③ 戦いぬく「精神力」

以上の「力」を持った選手同士であることを求めます。そして、競争の中で、互いに刺激し合い技術や考え方を学び、理解し合うこと。その積み重ねから「確かな技術力」を持ったチームとなれるようにサッカーに取り組んでいきましょう。

最後にジュニアユースの皆さん、チーム力を高めるのであれば「活動」に関わる個人のサッカー以外の取り組みも疎かにはできませんね。ある選手は、学習を疎かにした結果がテスト結果に出てしまった、またある選手は勉強時間を確保できてはいたけど、結果が出なかったからと勉強の取り組み方を見直した選手がいますよ。今後、1学年あがれば勉強は大変になりますが、そういった取り組みの中で、見直し手を加える「習慣」をつけておくだけで、年度が変わってからの受験勉強や活動も充実して過ごすことができます。今からでも間に合います。「習慣」を見直し、次年度への準備をしていきましょう。

～ ある卒業生からのエール ～

最近、よく試合を観に来てくれている卒業生がいます。その選手は第3期生の「齋 真真(さいとうま)くんです。彼は、MJリーグから新人戦の数試合を見ていて感じるどころがあり、先日コーチとの会話の中でみんなへのメッセージをくれたので紹介したいと思います。

「ジュニアユースの皆さん、アバンツァーレでの活動はどうですか？卒業した今でも、アバンツァーレのサッカーを見たり結果を聞くことが楽しみです。そして、皆さんの活動の様子を気にかけています。残念ながら、今年結果は出ませんでした。下が向いてはいただけません。これからが選手みなさんの活動が結果に出てくる大切な期間です。冬のトレーニング期間でしっかり強化して、その成果が結果として出るように今からこれまで以上に力を入れて活動してみよう。3年生のみんなはこれからの受験に備え勉強に切り替えて頑張ってもらいたいです。

僕は、今でもアバンツァーレで活動してきたことも、先輩方が作りあげてきたアバンツァーレを誇りに思っています。先輩方、コーチを含め、人として「自立(自律)」することを大切にしてください。そのためのチームの約束、あらゆる物事の習慣化を目指して活動していました。今のみんなにも、人として成長してもらいたい、アバンツァーレというチームはそれができるチームです。

みんなが、「サッカーが好き」「上手になりたい」、その気持ちはよくわかります。でも、まず私生活も見直してみよう。きっとサッカーの取り組みでもなにか成果は出るはず。僕も選手時代はだいぶ苦労しました。でも、今はやっておいてよかったなと感じているところです。今は大変だと思いますが、面倒くささらずに取り組んでみてください。

そして、最後に富山コーチも言っていました。練習場に掲げられている卒業フラッグを見たり、コーチから話されるチームの「歴史」を感じて、アバンツァーレの選手であるという「誇りと自覚」を持って1年間活動してみてください。

有名選手の武器から考える ～ チームの武器としていくもの ～

今回、注目して欲しいのは前回W杯の当時21歳(現24歳)だったボスニア・ヘルツェゴビナ代表で、現在プレミアリーグ強豪チームのエヴァートンでプレーしているムハメド・ベシッチ選手。この選手は、FIFAが分析した調査で、パス成功本数(全試合のパス成功本数÷出場時間×90)で5位、走行距離(全試合の走行距離÷出場時間×90で計算)で8位に入りました。1試合平均11.63kmを走り、70本ものパスを繰り出しました。まさに現代サッカーに求められる運動量と技術を兼ね備えた“ハイブリッド”な選手です。活躍に注目してみましょう。



ムハメド・ベシッチ

今回、紹介した選手から皆さんに今後のリーグ戦を戦い抜いていくために必要なことは、「個の力」をよりゴール場面で発揮することです。チームのサッカーはまだ、選手を走らせるパスが多いです。ただ、1部で戦いぬいていくには、オプションが少ないように思えます。

そこで、サッカーの基本中の基本、「動きながらサッカー」に考え方を戻しましょう。走りも反復して繰り返し行われるスポーツです。時に瞬発的に、そして連続的に、そしてダイナミックに長い距離も献身的に走り切れる力です。

そこで、チームでは『技術に運動量を兼ね備える』

ということ、一つ来年度のチームの「基盤」として活動していきます。

～ トリプルに加え、「個」の武器として磨くもの ～

これから紹介する選手は、「運動量」を日本代表でも活躍しセレッソ大阪J1昇格に貢献した「山口 蛍(やまぐち ほたる)」選手です。山口選手はサッカー選手の中でも小柄で173センチ。でも身体の大きな選手とぶつかり合っても負けることがほとんどありません。ぶつかり合っている時の身体の当て方など観察してみたいですね。そして、山口選手の最大の魅力としてあげられるのは...

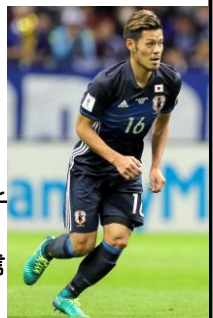
高い身体能力を活かしたボール奪取能力

他の選手より高い位置でボールを奪えるかということやはりポジショニングの良さと判断力の早さでしょう。相手や味方との適切な距離感を維持しながらチャレンジするのがステイナブルなことを適切に判断できます。

また、いつでもフル加速できるだけの豊富な運動量、終盤になっても前から積極的にプレッシャーができる。細かいことで一見わからないことですが、本当に素晴らしいです。高い位置でプレッシャーを掛けるということは、その後のカバーリングも早くしないとけないため、かなりのスタミナが必要です。それをなんなくこなせるケタ外れの運動量を誇っています。ちなみに山口選手のような選手がチーム内にいるだけでサッカーがより前がかりになって攻撃陣にボールが渡りやすくなります。

更に攻撃センスも高く、高い位置でのボール奪取に加え、その後の展開にも目を引くものがあります。特に山口選手はボールをこね回さず素早く前線の選手にパスを送る印象があります。トップスピードからインターセプトにチャレンジし、その奪った瞬間の一回のタッチをパスにしてしまうというプレーも見られました。とてもシンプルです。ボールを奪ってから攻撃までがとても早いです。奪う位置が他のポランチより高い位置なので、相手DFの体制が整わないうちに攻撃を仕掛けることができます。

来年度のアバンツァーレは、基本的な技術も質が高く、「運動量」、「ボール奪取能力」を兼ね備え、さらに判断力を伴い、ボールを失わず1試合を通して攻撃的なサッカーで戦い、その勢いが失速することのないチームでリーグ戦を戦いぬきます。そのための、準備をしていきましょう。コーチも全力です！皆さんによく言葉にして伝えていきますね。コーチは「本気」です、そのための協力をしていきます。みんなもこの一年はコーチと「本気」で戦っていきましょう！



山口 蛍 選手